

岩国・祝島・広島ツアー報告(2010.8.1～4)

2010.9.20

このツアーは、東京の「福島老朽原発を考える会」「空と海の放射能汚染を心配する会」「ピースニュース」という市民団体の共催で行われました。原発と基地という国策を押し付けている問題、そして戦争や原爆の問題を学ぶツアーでした。

岩国

* 岩国には米軍の基地がある。岩国では何も言わず受け入れてきたが、1968年の墜落事故から危険や騒音の軽減を求める世論が高まる。そして1971年、岩国市議会が「沖合移設に関する決議」を議決。

1997年、滑走路の沖合移設事業着工。2005年10月29日米軍再編の中間報告において厚木からの空母艦載機部隊の移駐が盛り込まれた。それに対し、2006年3月の住民投票で反対が87%（全投票有資格者の51.3%）。2006年4月23日「白紙撤回」を公約にした井原さんが当選。民意は反対。しかし、2006年5月1日に合意し5月30日に閣議決定。民意をないがしろに押し進める移駐。

滑走路の沖合移設に便乗してNLP(夜間離着陸訓練)の密約があった。沖合移設は住民の基地の負担軽減ではなく、基地の強化と拡張だった。(…だまされた思い)(1998年1月「タッチ・アンド・ゴー」と呼ばれる離着陸を226回も繰り返した9日の訓練では、一度に飛ぶ機は3機以内にするようにとの地元の申し入れもむなし、最高で1度に7機が飛行したり、コンビナート地帯の上空を飛ぶ機もあるなど。242件に達した岩国市や隣接の由宇町、岩国署などへの苦情電話は「眠れない」「子供が引きつけを起こしそうだ」「受験勉強ができない」など)

沖合の海を埋め立てて作られた場所は、元々藻場、干潟がある自然豊かな場所だった。そこに厚木からの空母艦載機も飛んで来ているという。

埋め立てる土砂は、愛宕山という里山を削ったもの。当初は「理想の町を作る」といって、住宅開発を進めていたが、途中で赤字だからと頓挫。そこへ国の防衛省が買収し、それを米軍の家族の住宅地にしようとしている。(…できすぎたストーリーではないか。…だまされた思い、でも米軍住宅にはしないぞ！愛宕山開発を止めれば、厚木からの米軍や家族が来られない、艦載機も岩国に来られない、というつながり。) 現在愛宕山神社で座り込みを開始。

【田村市議の案内】

田村順玄さん：岩国市の市議会議員。草の根で「おはよう愛宕山」を隔週で歩いて配布！3000票を獲得し、4回目の当選。一人会派。

岩国市役所：井原市長時代に防衛施設庁が3年目の新庁舎建設補助金約35億円を07年度予算に計上せず、補助金をカット。08年1月4日、井原市長が予算と引き換えに辞職を申し出る。そして選挙で基地容認の福田新市長就任で、止められていた国の予算が復活し、新市庁舎は完成していた。ガラス張りの近代的な建物！民意を踏みにじる露骨な嫌がらせだと思った。

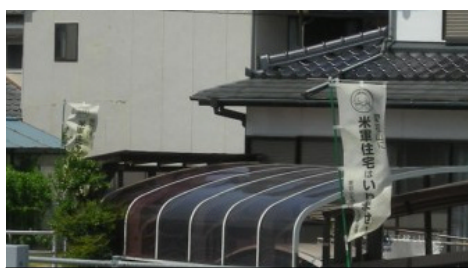


市役所の屋上から岩国市全体を見る：基地が見える。格納庫など付帯設備も「移設」する。今年度600億、向こう3年で1500億円。新滑走路ができたとともに、厚木からの米軍空母艦載機移設が明らかになった。「思いやり予算」で米軍再編の先取りがされている。厚木からの艦載機が移転しても厚木の訓練空域は無くならない。

愛宕山開発の地へ 250億円の借金、一日100万円の利子！？



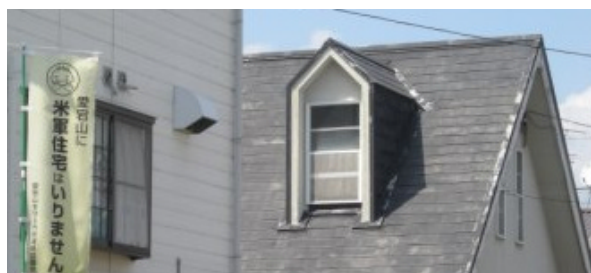
百合ヶ丘自治会の意思



「愛宕山に米軍住宅はいりません」の黄色いノボリが道中にいっぱい



「愛宕山神社」 里山愛宕山の上から下ろした。



ノボリと白っぽくなった屋根

愛宕山開発で岩盤が強かったのでダイナマイトで爆破させて山を切り開いた。10年間も、その粉砕したものが辺りに飛び散り、黒色の屋根が白っぽくなった

【その他】

- ・神社にて：「理想の町」から「米軍住宅のセキュリティのまち！？」（周囲が緑で囲われているから）
- ・高台から：基地を眺める。工事中でクレーンが見える。手前のグリーンはレンコンの畑。島がいっぱい。島の形が変わっているものもある。
- ・階段に柵：以前は里山で公共の道だった。その道という。

岩国の基地へ：正面玄関には日米の国旗

- ・基地の囲い：毒クモが来たので広がらないように下のほうにシート、効果は不明
- ・基地の中にボーリング場：「ファミリーデー」と書かれていた
- ・沖合移設された基地：だだっ広い空間。白いののは2400mの滑走路



田村市議の事務所：「敷居は低く、間口は広く」

中では、写真などを用いてNLPや毎朝燃料を燃やす話、落下物に放射能マーク（トリチウムだったらしい）があったことなどを聞いた。

【ピースリンク広島 呉 岩国の大月さんの話 一部分】

Q: なんで岩国に基地ができた？

呉の日本海軍の航空隊としてできたのが岩国基地。

もともと広島に陸軍が日清戦争以来、陸軍の拠点の基地がおかれ、大本営（*国会機能や皇居があった）があった。天皇がいた。呉は海軍の町だった。それで広島湾になっている。飛行機が攻めてくるとは思っていなかった。それで湾からさえ防御していれば大丈夫だろうと思っていた。

かつて、広島は陸軍・呉は海軍・岩国は海軍航空部隊という一体の基地だった。

- ・広島では自分たちのすぐそばに米軍基地があるという認識がなかなかない。

広島では核兵器廃絶は言うけれども、兵器を作っているとか、もともとの戦争で兵器を扱う基地に関して言われることが殆ど論じられることがない。沖合移設で戦闘機が広島へ飛ぶように

なった。それで岩国にある基地問題が広島も自分の問題だとつながりやすくなった。

プチ碑めぐり



- ・動員学徒慰霊塔：当時の学生は、学業ではなく、兵器工場や縫製工場などへ動員された。その被害と共に、知らず知らずにそのことが加害につながっていた。だから自分が何をしているか考えよう。
- ・原爆の子の像：原爆でなくなった全ての子供たちの像。03年に折り鶴に放火する事件があったから、千羽鶴はケースに入れられた。
- ・お墓
- ・韓国人原爆犠牲者慰霊碑(左写真)：日本人が朝鮮を差別している象徴として語られる。以前は川の向こう。現在は中に。対照的なのが沖縄の慰霊碑。これはヤマトと一緒にいやだというために外れにある。

祝島 山口県上関町(瀬戸内海に浮かぶ自然の循環と共に生きる島)

人口約 500 人のハート型の島。対岸の田ノ浦に上関原発建設が計画されている。祝島の 9 割の島民が反対している。祝島は命の海を埋め立ててつくる原発は、生活を脅かす死活問題。生活のために、この島ですっと生きていくために、原発反対の運動を 28 年間も行い続けている。中国電力から補償金 10 億円以上が祝島の漁協の口座に勝手に振り込まれたが、すぐ中電に返還。

原発建設予定地は生物多様性のホットスポット。

今回は、その自然を感じて、こんなに豊かな自然と原発の矛盾を感じに行くことも目的の 1 つ。

【スナメリ・バードウォッチング】

飯田智彦さん(九州大の人で、カンムリウミスズメを瀬戸内海で発見した人)

高島美登里さん(長島の自然を守る会)

- ・スナメリ見えた？
- ・中電が去年の 10 月の台風の日にした、使い古しの正式ではないのブイ(黄色い浮かんでいる目印)を見た(右写真)
- ・宇和島へ：オオミズナギドリは瀬戸内海でもここだけしかいない。48 しか巣穴が見つかっていない。100 が最小単位なのに・・・



大丈夫か？衰退を表す巣穴の数。

上陸してオオミズナギドリの営巣地を観察。なんでこの島だけなのか？を調査中。

この周辺はエサになる魚が多いから繁殖している

土の穴を見たが、卵は無くなっていて、ねずみに食べられていたみたい。



・原発の冷却水取水口の予定地にて高島さんの解説の一部

毎秒 190 トンの水を取り入れる(2 基稼働時)。一級河川が 2 本半できるみたいなもの。四万十川と同じくらい。

温排水は温度だけでなく、次亜塩素酸ソーダという塩素処理剤(ハイターみたいなもの)の影響も大きい。パイプの中にカキなど取り付くと困るから投与する。それが、電力供給に関する研究所というような御用機関でさえ、プランクトンが 70% 死ぬと言われている。もっと厳密な機関だと 90% のプランクトンは死ぬと言われている。

原発建設予定地のところが自然が残っているし、海流がやってきて、水の流れもぶつかるこ

ろなので、とてもきれい。このあたりの透明度は15mも！瀬戸内海でもずばぬけて透明度が高い！

湧き水が出ている！降水量換算で一日780mmくらいの湧き水が出ている。長島でしか見つかっていない生物がいる。



練り壁：祝島固有の壁。文化の宝庫。

月曜デモ：18:00 集合。 漁協代表の山戸さんの挨拶。「瀬戸内海に原発をつくらせない。最後まで

この島で生きていく、そういう意志の元でこれからもやっつけていこう。」そして、デモ。「原発、はんたーい、エイエイオー」「きれいな海を守ろ～！」

「ふるさとの自然を守ろ～！」

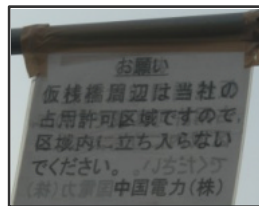
*若そうな女性もいた。小学生は4人。今年の4月から来た母子と話す。

犬もいる。



田ノ浦：上関原発建設の海埋め立ての予定地で座り込み

- ・今、中電がやろうとしていることは、道が狭くて機材が運べないので、仮栈橋から重機を入れて工事を進めようとしている。海から大きな台船を持っていきたい。仮栈橋の補強がしたい。それでもめている。この日は仮栈橋につけているはり紙を取り替えさせてくれと言って来た。



・私たちが訪れる前にあった出来事

- ・8月1日、電力総連から推薦、支持を受けた中国地方の民主党、国民新党の国会議員や地方議員らでつくる「未来の環境・エネルギー政策を考える会」（代表・柳田稔民主党参院幹事長、53人）は1日、中国電力が上関町長島で進める上関原発計画の建設予定地を視察した。上関原発予定地を訪れたのは柳田会長や山口1区選出の高邑勉衆院議員ら国会議員3人、藤沢宏司柳井市議ら地方議員4人と中国地方電力総連役員ら計23人。一行は広島市での環境政策に関する講演と柳井市内で中電社員から上関原発計画の概要の説明を受けたあと、予定地を訪れた。この視察に合わせて、上関原発反対の祝島島民ら約150人が漁船約40隻で予定地海岸に駆け付けた。島民らは「上関原発絶対反対」などの横断幕を張って「この沖合の祝島には30年近く上関原発に反対する漁民がいる。ここに原発を建てていいのか、考えてほしい。祝島との位置関係を把握して帰ってください」と訴えた。視察を終えて、柳田代表は「中国地方は化石燃料を燃やして電力を供給している比率が高い。そのためにも原発を推進しなくてはならない。地元推進団体から早期建設を求める嘆願書を受けたし、今回の視察を持ち帰って党や政府に訴えていきたい」と話した。初めて予定地を視察し、祝島島民と直接、言葉を交わした山口1区選出の高邑代議士は「（祝島島民らが）何に懸念を持たれているか。しっかり話し合うことが大事だ」と述べた。8月2日は、未来の環境とエネルギー政策を考える会の民主党ら5人が来た。（山口新聞よりコピー）

- ・朝7時に船を出す。おばちゃんたちは4 - 5人で1班。毎日交代で田ノ浦へ。男手は2人。オバちゃんは、2週間に1回程度の頻度で田ノ浦へ。以下は、やり取りの言葉の一部。

「(中電がやってきて)おはようございます。」「埋め立てにつながる作業はだーめ」「(仮棧橋のゲートの前で)根が生えたよ」「あんたらはよ引き上げたほうがいいよ」
 「わたしらはこれで困るんだから、妨害じゃない。されたらわたしが困るからじゃろうが。」
 「あんたらがちょっと言うてもだめいうことよ。埋め立てにつながることもやから。」
 「28年間中電は祝島を無視。中電はうそばかり。遅すぎる。土下座しても祝島に理解を求めると言ったのに、来なかった。中電は言うこととやることが違う。」
 「あんたらちょっとの間だけ来て...、わたしらこうして28年もこうしてがんばりよる。」
 「あんたらまたわからん人がきて、ちょっとの期間だけきて帰るん。私はずっとですよ。」
 「も (中電の人名)もおんなじ。」
 「私ら(仮棧橋のゲートを)通す気ないんやから、ちょっというてもそれだけですよん。」
 「生活があるから、海で生活してるんですから。」
 「原発へ手を貸す人は嫌いなんです。わたしらはここで生活する人なんです。」
 「もこないだまで上関に税金も払って住むと言ってたのに半年でいなくなった。」
 「今まで中電はうそばかり言うてきよるからこんなになった。繰り返しですから。」

闘いは今も毎日続いている

最近の闘い

突然9月9日の夜8時に中電の台船が周防大島を出発。

作業は中止を宣言したが油断ならない状況。13日から作業を行うという通知が13日に来る。

抗議の声をみんなで出そう！のネットワークでたたかいたい。



軍都広島 広島には大本営があった。朝鮮・アジアへの侵略の拠点！

侵略戦争であったかどうかで一番大事なこと

「自国の領土の拡張や、他国の支配を目指した戦争であったかどうか。」

広島平和教育研究所主催の「戦跡をたどるフィールドワーク」に参加

講師は、被爆教職員の会、江種(えぐさ)祐司さん。17歳の時、学徒動員で広島市内の工場で被爆した。



・広島城近くにある 日本軍歩兵第11連隊跡

1875年(明治8)に歩兵第11連隊が編成された。以後半世紀にわたり、日本の侵略戦争の拠点となった。堀の周りはずべて兵舎。歩兵第11連隊は軍港宇品港へ行進し、そこから朝鮮へ侵攻した。銃をかついで、4列縦隊でこの門柱から出て行った。戦後「白木の箱」で帰ってきた、それは比治山の陸軍墓地に納められた。最も強い歩兵第11連隊(東洋の鬼)捕虜を突にお粗末に扱う。

日中戦争以来、中国において日本軍は、奪いつくし、殺しつつ、焼き尽くす作戦(三光作戦)を行った。門柱を通して考えよう。広島が中心が軍事拠点であったことを考えてほしい。

日本が行なった50年戦争

日清戦争	1894年から95年
日露戦争	1904年から05年
第一次世界大戦(ドイツ)	1914年から18年
満州事変	1931年 ここから15年戦争が始まる
支那事変(日中戦争)	1937年
大東亜戦争(太平洋戦争)	1941年
敗戦・全面降伏	1945年

1940年に決定した日本の「生存圏」

西は、今の中国・インド・そして南はオーストラリア・ニュージーランド、東はタヒチとか(ミッドウェー島やハワイは入っていない)、北は、サハリンの真ん中くらいと北方領土のところ。

こんなにも広い場所を日本の支配下に治めようとした。

敗戦を迎え、結局もとのままに戻った。結局あの戦争の熱気は？実におろかなことをやった。

マリアナ諸島とか南方へ派遣された兵士は60%が餓死。

広島は、かつて天皇がいて国会があり、軍の上層部がいて戦争を指導した、という侵略戦争の要だった。天皇の軍隊を置いた。軍事基地は広がり、軍都広島になった。

・広島大本営跡(1894年(M27)~1896年)

明治天皇が日清戦争指揮と戦争政治を行った。大本営跡は広島城のすぐ近く。爆心地から800m

1894年、6月に山陽本線が広島まで開通する。

明治天皇が8月1日宣戦布告。8月4日に総動員し、宇品港までの線路の開通工事は24時間体制で行われ、8月20日に宇品線の仮の線路が完成。

国会議員・軍隊の上層部・天皇がいて戦争を指導していくところが大本営

私たちは戦争中にこの大本営跡に入り、明治天皇がやったことを学ばされた。

戦争に必ず勝つという精神を植えつけられた。緊張して入る場所。

ここは明治天皇自らが戦争を進めていった場所。



地図提供: <http://www.arch-hiroshima.net>

・中国軍管区司令部地下壕跡

1945年第5師団司令部は中国軍管区司令部となった。

半地下の建物。天井には盛り土。頑丈。4つ部屋がある。地下司令部の一番奥の部屋は上層部である司令官たちが死ぬことのないような部屋だった。軍の階級のトップ天皇は最大の責任者。これは揺るがすことができない。



・広島市街東側にある 比治山の旧 ABCC・放射線影響研究所

比治山は土で覆われていたが、原爆後は、避難するために山の上を目指す被爆者でいっぱい。しかし、途中で息絶えた遺体がいっぱいだった。息絶えた人の上に四つんばいで避難するがその遺体の上に折り重なって亡くなる。朽ち果てた人の亡骸が、人間として我慢できない臭いをはなっていた山。

1947年米軍が ABCC という被爆調査の建物を建てた。

現在は放射線影響研究所、経費は日米政府同額負担。日米 役職員 330 名。

被爆者を集め調査をし続けた。そしてその調査データはいまだに公表されていない。

江種さんは昭和 23 年 4 月から中学の音楽の先生になった。

ケロイドで頭をまっすぐに起こすことのできない学生、指で鉛筆をもてない、でくの坊の手の学生、字も書けない。授業中、子供たちを ABCC に連れて行く。3 年の女学生が ABCC に行かないという。柱につかまって行かないという。ABCC では思春期真っ只中の少女の服を脱がせて写真を撮られた。そして金具で背中を引っかかれる、その反応を写真に撮られた。私たちは比治山に私たちの子供をおくことに反対する運動をおこした。26 年まで 6 年間占領下。どうしようもない。

私の息子は 39 歳でガンを宣告されオペを受けたが 3 ヶ月で亡くなった。私の体の中に焼き付けられた放射線が息子を殺したと思っている。

オープンハウスで質問しても遺伝子に影響ないといっている。まだわからないというが、わからないなら影響ないと言っはいけないのではないかと聞くと黙って下を向いた。

・放射線影響研究所の裏手には日本軍の軍人墓地がある

比治山には日清戦争以来の軍人の墓地があった。敗戦後、アメリカはブルドーザーで墓を削って ABCC を建てた。墓石は散乱したまま。散乱した墓石を整理して、住民を中心として県や市や国に要求した。そしてできたのが、ここ。狭いところ。墓石は 1 センチも隙間なく置かれている。

・比治山から広島湾と宇品港を眺める

似島、峠島、金輪島（江種さんがいた）等これらの島々 4 つが軍事拠点に広がった。似島は検疫をする島。被爆時に 1 万人を超える



被爆者が荷の島へ。500人が帰ってきた。9500人は？それが似島の歴史。新しい小学校を作るため、26年後617遺体を発見。今のなお無数の被爆者が眠っている

・レンガ造りの陸軍被服廠

鉄の扉が変形している。原爆の爆風による。

1945年になると、運びこむものがなくなってきた。倉庫が空っぽになってきた。それが敗戦直前の状態。あいたところに被爆者がいた。原爆落とさなくても戦争続けられなかった。

・軍港・宇品港跡

宇品線の跡、駅は残されない。宇品港から戦争に行く兵士。仮設された栈橋から兵士は船に乗り込んだ。沖合いの輸送船に乗り込んだ。

・海上警察の建物（被爆）が残っている

被爆体験

広島湾の金輪島で被爆。左のほほが広島側、熱と思った。目の前が渦巻き。爆発、意識なくなった。物音が全部消えてなくなった。静まり返った。島全体が軍事基地で工場が動いている。造船所。船を修理。大きな音、奇襲機がゴウゴウ。静かで怖い。そして逃げる、出て行こうとしたとき、気づいた。自分の頭にガラスの破片が突き刺さっていた。それできのこ雲が見えた。1万2000mまでみるみる舞い上がった。とつても恐ろしい雲。表面の色は紫・緑・だいたい色というんな色に変わる。

すると声が聞こえる。女学生白いブラウス・黒いもんぺを着ていた。その女学生の胸一面にガラスの破片が刺さっていた。血が流れて立てない。軍が病院へつれてこうとした。私たちは何もいえなかった。軍隊の服を縫っていた仕事。明かりを取るため大きな窓ガラスの破片だった。

27キロ先までガラスが破壊された。金輪島の6キロは近い。

被爆直後広島市内を流れる猿猴川は、風船のように膨らんだ遺体でびっしりと覆い尽くされていた。

1945年9月17日の枕崎台風の濁流によりそれらの遺体はすべて川底に埋もれたそうだ。それらの骨はすべて今でも川底に沈んだままだという。65年後の今でも貝堀りをすると、その骨がでてくることがあるという。

散策・・・被爆した建物で残っているのは、コンクリートやレンガの建物だけ。

- ・袋町小学校：被爆者の伝言板に使われた
- ・被爆した建物：旧日本銀行など
- ・原爆資料館：原爆後の平和公園周囲のジオラマ・ゆがんだレンガの塀など
- ・平和公園：8.6に向けた集まりがあったようだ。花と原爆死没者慰霊碑と平和の池と原爆ドーム



感想：戦争の被害だけでなく、天皇主導の全体主義（国優先）の日本は侵略側という加害の未解決な歴史を踏まえ、今ある基地問題や原発問題など共通した民意を無視した全体主義の問題（国策で押し付けるやり方）の解決を、つながった人々やこれからつながる人々みんなで行いたい。

（0）